

令和7年(2025年)1月24日
八王子市社会福祉審議会
高齢者福祉専門分科会
高齢者福祉課

施策

07

テーマ1

多様な職種や機関が連携して個人や地域の課題を解決している

〔(仮称) 地域
包括ケアア
クションプ
ラン〕の策定(令
和6年度中)

No.

中間アウトカム

指標(現状値→目標値)

No.

初期アウトカム

指標(現状値→目標値)

No.

事業

後掲

【施策08-3-3】地域全体で身近な高齢者を見守り、困りごとをもつ高齢者を適切な支援先につなげることができる

—

後掲

【施策09】多様なニーズに対応する支援や見守り

—

3-1

関係者の連携により、高齢者に適切な支援が行われている

効果的に連携できていると思うあんしん相談センター職員の割合
46.6% → 59.0%

再掲

【施策02-3-3】医療・介護それぞれの専門職が目的意識を共有し、高齢者を支えるパートナーとして連携している

—

再掲

【施策05-4-7】認知症介護従事者の質の向上と関連機関との連携がはかられている

—

4-1

【地域福祉計画】高齢者や家族を支える専門職や機関が、顔の見える関係性を築いている

(専門機関向け)はちまるサポートの事業内容と役割の認知度
83.8% → 95.0%

4-2

【地域福祉計画】連携して課題解決する仕組みが機能している

他機関と連携する仕組みや体制があると感じる支援機関職員の割合
70.5% → 80.0%

3-2

個別のケースから抽出した共通の課題に対して、政策的な対応が行われている

提言した課題が政策につながっていると感じるあんしん相談センター職員の割合
9.2% → 17.0%

4-3

地域ケア会議で地域課題が抽出されている

【指標なし】
(5-6の検討を経て設定)

4-4

地域ケア推進会議において、地域課題を解決するための政策を提言している

①政策提言数
2件 → 2件
②5-6の検討に基づき設定

4-5

個別のケースから抽出した共通の課題に対して、政策的な検討を行う仕組みがある

〔(仮称) 地域包括ケアアクションプラン〕の策定
(令和6年度中)

3-3

市のビジョンに基づく地域包括ケアシステム構築の拠点として高齢者あんしん相談センターが力を発揮できている

【指標なし】(5-6や5-8における検討や包括運営部会での検討を経て9期中に設定)

4-6

高齢者あんしん相談センターの機能強化に向けた課題が明確になり、市として解決を目指している

【指標なし】(5-6や5-8における検討や包括運営部会での検討を経て9期中に設定)

4-7

各高齢者あんしん相談センターが、自らの役割に注力できている

必要な体制が確保できていると感じるあんしん相談センター職員の割合
32.8% → 43.0%

5-1

高齢者あんしん相談センターによる地域の多職種・関係者の研修・会議

研修開催回数
114回 → 130回

5-2

企業、店舗等の地域ケア会議参加に向けた検討

企業、店舗等の地域ケア会議への参加者数
26人 → 30人

5-3

多職種が参加する地域ケア会議における個別事例検討

個別事例検討件数
84件 → 97件

5-4

【地域福祉計画】重層的支援体制整備(顔の見える関係性づくり)

多機関合同研修の実施回数
延13回(自立支援、精神障害、ひきこもり支援)→ 20回

後掲

【3-3】市のビジョンに基づく地域包括ケアシステム構築の拠点としてセンターが力を発揮できている

—

5-5

【地域福祉計画】重層的支援体制整備(課題解決の仕組み)

多機関支援マニュアルなどを活用した支援会議の実施
— → どの窓口にも複合的な相談が来ても対応ができるスキームの構築

再掲

【5-3】多職種が参加する地域ケア会議における個別事例検討

—

5-6

地域ケア会議・地域ケア推進会議の運営手法再構築

地域ケア会議のマニュアル作成及び地域ケア推進会議の新体制の構築
(令和6年度中)

5-7

地域ケア推進会議の実施

地域ケア推進会議の開催回数
4回 → 4回

5-8

地域包括ケアの深化を強力にすすめるための検討と体制整備

所管横断での検討実施
— → 令和6年度検討開始

5-9

高齢者あんしん相談センターの役割の明確化

成果連動型委託契約の導入
(令和6年度中)

5-10

高齢者あんしん相談センターの体制充実と負荷軽減

【指標なし】(5-8の検討を踏まえて9期中に具体的な検討を行い、取組や目標を設定)

後掲

【施策08-5-6】シルバーふらっと相談室等の相談窓口の設置

—

5-11

予防プランを委託できるケアマネジャーの確保

委託件数
27,552件 → 5-8の検討を踏まえて設定

5-12

予防プラン事業所指定や総合相談委託に向けた検討

【指標なし】(5-8の検討を踏まえて9期中に具体的な検討を行い、取組や目標を設定)

高 齢 者 福 祉 専 門 分 科 会

高 齢 者 福 祉 課

5-8 地域包括ケアの深化を強力にすすめるための検討と体制整備

●基幹型地域包括支援センターの現状

本市では、21の高齢者あんしん相談センターが圏域ごとの課題やニーズを踏まえた効果的・効率的な運営を行えるよう、高齢者福祉課内に「基幹型地域包括支援センター」を設置し、センター一間の総合調整や後方支援を行っています。

しかしながら、支援困難ケースの増加が見込まれる中、共に支援にあたる他の専門職との連絡・調整事務がさらに増加していくと予想されます。また、地域ケア会議や個別事例の支援からの気づきを全市的な政策形成につなげていくためには、制度運営やデータ分析を担う所管がより積極的にセンターとかかわっていく仕組みが求められます。

そこで、現状の基幹型地域包括支援センターについて、より一層の専門職の人材育成・資質向上をはかるとともに、庁内関連所管が連携して高齢者あんしん相談センターを支えていく体制づくりを推進します。

●「(仮称)地域包括ケア庁内連携会議」による検討

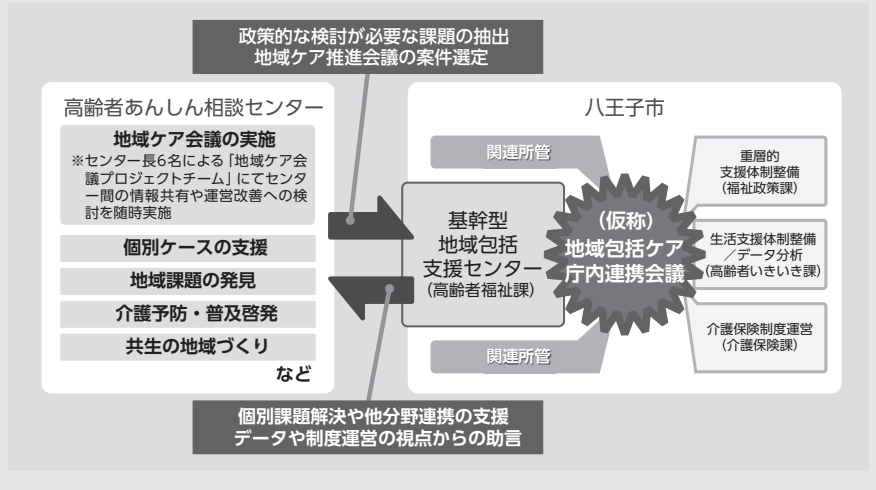
□第1段階(令和6年度)

まずは関係所管が随時情報を共有しながら、「基幹型地域包括支援センターのあり方」「庁内の連携」「高齢者あんしん相談センターの体制強化」「重層的支援体制整備との連動」「政策形成につながる課題抽出や地域資源づくりとの連携を見据えた地域ケア会議の運用」「地域ケア推進会議のあり方」等について議論する「(仮称)地域包括ケア庁内連携会議」を設置します。そのうえで、令和6年度(2024年度)中に課題解決に向けたロードマップである「(仮称)地域包括ケアアクションプラン」を策定します。

□第2段階(令和7・8年度)

「(仮称)地域包括ケアアクションプラン」に基づき、基幹型地域包括支援センターの機能強化と庁内連携の強化を推進します。また、中長期的な対策が必要な課題については、引き続き抜本的な取組を検討し、第10期計画などに反映していきます。

【(仮称)地域包括ケア庁内連携会議イメージ】



5-10 高齢者あんしん相談センターの体制充実と負荷軽減

●高齢者人口等に応じた相談対応体制の強化

現在、21の日常生活圏域ごとに高齢者あんしん相談センターを設置していますが、支援が必要な高齢者のさらなる増加が見込まれる中、その圏域の「広さ」や「特性」などに応じて、支所的な機能をもつ拠点の整備などセンターの機能強化をはかるとともに、これまでの仕組みにとらわれることなく、センターが役割をしっかりと担える体制づくりに取り組みます。

●生活支援コーディネーター(ＳＣ)・認知症地域支援推進員の体制強化

生活支援コーディネーター(Ｐ80)及び認知症地域支援推進員(Ｐ63)については、現在日常生活圏域ごとに非常勤職員を配置していますが、今後常勤職員体制とするなど地域の支援体制の強化を目指します。

●高齢者あんしん相談センター機能と人員体制の強化

支援困難ケースや相談件数の増加が見込まれる中、センターの人員体制の確保や全圏域で同等水準以上の取組を行うなど機能の強化が求められます。このため、本計画期間中の高齢者あんしん相談センターへの業務委託契約においては、「地域ケア会議」の最低開催数や「地域の実態把握」など新たな取組について仕様書に組み込むとともに、センターの人員体制の強化を目指します。

●成果連動型委託契約の本計画期間中の試行導入

高齢者あんしん相談センターの取組による成果(圏域の高齢者の状態や地域資源の状況など)に応じて委託費を支払う成果連動型委託契約を試行導入します。本市がセンターに期待する役割を明確にするとともに、成果を出すために必要なコストを負担することで、地域包括ケアシステム構築の中核を担うセンターが力を発揮しやすくなるような契約とします。

●介護予防支援事業所指定に向けた検討

高齢者の増加に伴い、全国的に地域包括支援センター職員が作成する介護予防ケアプランの量も増大しています。そのような中、令和5年(2023年)5月の介護保険法改正で、居宅介護支援事業所(ケアマネジャー事業所)も市町村からの指定を受けて介護予防ケアプランの作成が可能となりました。

本市では、このような動向も見据えながら、高齢者あんしん相談センター職員の介護予防ケアプラン作成による負担を軽減するための検討をすすめていきます。

●高齢者あんしん相談センター業務のDX(デジタル・トランスフォーメーション)

高齢者あんしん相談センターでは、相談内容や支援対象者に関する情報をシステムで記録・共有し、チームによる支援を行っています。しかし、紙ベースで取った記録を改めてシステムに入力する必要があるなど、情報の記録・管理も業務負荷の一因となっています。

今後、相談件数の増加等業務増加が見込まれる中、高齢者あんしん相談センターの業務のDXを推進することで、職員の負担軽減と素早い情報共有による支援の質の向上を両立させることを目指していきます。